

令和7年度環境・社会理工学院共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

所属系・役職	イノベーション科学系・助教
氏名（フリガナ）	堀口 涼子（ホリグチ リョウコ）
研究題目	医療的ケア児世帯のウェルビーイングに関する研究
受賞名	若手研究奨励賞
<p>研究の背景</p> <p>我が国の医療的ケア児（以下医ケア児）の人数は2.0万人であり、医療の進歩に伴い、増加傾向である（厚生労働省，2019）。医ケア児の病態は各自異なり、個別対応となるため、統一した施策にはつながりにくく、実際の政策決定に貢献し得る研究が求められる。本研究は、医ケア児世帯のウェルビーイングに関する研究と題し、持続可能な開発目標（United Nation, 2015）の3項目目にあたる「すべての人に健康と福祉を」の達成を目標とした研究であり、本学の Sustainable Social Infrastructure の理念にもあてはまる研究となる。</p>	
<p>研究の概要と成果</p> <p>本研究の内容は2本立てとなる。まず、医ケア児世帯のウェルビーイングを測定するために、医ケア児の介護者のウェルビーイング、ケア時間による母親の就労制限や経済的負担の詳細内容、現行の社会福祉制度や医ケア児世帯の社会的排除等に関する質問項目から構成される質問紙を用いて量的調査を行う。いまだ明らかになっていない日本における医ケア児世帯のウェルビーイングや社会的孤立の現状を明らかにし、そのウェルビーイング向上のために社会制度的に必要なものは何か、実態調査及び量的分析を行うことで、日本における医ケア児世帯の実態に関して国や自治体に政策提言を行い、医ケア児世帯の地域支援に間接的に貢献することが第1の目的となる。次に、医ケア児世帯のウェルビーイング向上に直接貢献すると考えられる、医ケア児をケアする訪問看護師（医ケア児の自宅を直接訪問してケアを行う看護師）や、学校看護師（医ケア児が小中学校に通学している場合に学校現場でケアを担う看護師）、児童家庭支援センターなどの児童支援の現場で医ケア児あずかり対応を行う保育士、相談員や児童支援員が、日本の各地域や教育現場と連携しながら、どのように医ケア児とその家族のケアを行っているのか、インタビュー調査・質問紙調査及び質的分析を行い、医ケア児世帯に関わる専門職の実践知を可視化する。医ケア児世帯のケアを行う実践者の教育に貢献し、最終的に文科省や厚労省に政策提言を行うことで、医ケア児世帯のウェルビーイング向上に直接的に貢献することが第2の目的となる。</p> <p>本年度は、第1の目的となる医ケア児世帯のウェルビーイング測定を達成するために質問紙の構成について、先行研究や東京都の生活実態調査をもとに熟慮した結果、医ケア児の介護者のウェルビーイング、ケア時間による介護者の就労制限や経済的負担の詳細内容、現行の社会福祉制度や医ケア児世帯の社会的排除等に関する質問項目から構成される質問紙の暫定版を作成することができた。また、第2の目的の医ケア児世帯に関わる専門職の実践知を可視化するために、全国児童家庭支援センター協議会の協力を得て、昨年度2月末から全国199施設展開する児童家庭支援センターに所属する相談員や心理士対象の質問紙調査を行い、現時点において129件の回答が得られた。さらに回答が集まり次第、質的分析を行っていく予定である。児童家庭支援センターは地域の子どもや養育者に対する専門的な相談に応じることが規定され、児童相談所からの受託による指導にも対応する。子どもと養育者のレスパイトサービスも提供しているため、近年においては、子ども家庭庁が示したショートステイの対象児に慢性疾患児が含まれるようになり、医療的ケア児に関する施策の中に児童家庭支援センターが利用者支援事業として位置付けられるという変化もある。そのため、医療的ケア児に対する対応の実態が十分に把握されていない全国の児童家庭支援センターに対して調査を行ったことは、政策を先取りした成果となる。</p>	
<p>今後の展望</p> <p>第1の目的となる医療的ケア児世帯のウェルビーイング測定に関して、介護者のウェルビーイングについては医ケア児世帯専門の尺度が存在しないため、今後質問紙構成を更に吟味し、医ケア児世帯のインタビューから得られたウェルビーイングにつながる項目も追加しながら、新たな医ケア児世帯のウェルビーイング尺度を作成し、信頼性と妥当性を検証する予定である。第2の目的の医ケア児世帯に関わる専門職の実践知可視化に関しては、児童家庭支援センターの質的分析の結果を英文誌に投稿する予定である。</p>	

※このページは学院内に公開するので、他分野の教員でも理解できる書き方を心掛けて下さい。